俳諧

四季州

五

掌中新五百題三篇

田喜庵護物　輯

春之部

立春　春たちとこやゝ於もも用ゐし　長齋

初春　初春や出歩く月先ゝ皆犯子　雉啄

今朝春　於よ日の係よ出るぬけ春の春　蛙春

花春　半ゝ子のよゝ眼ゐくもゝの春　浦人

元日　元日ハかゝて二日のまゝれける　雪雄

川喜田孝助藏書出印

初日　お日出度や嵐の宿もさす初日　輪之

初空　廣々廣の初空とそり一ヶ庭一水　孤山

初鳥　花とさへ生先も有り初からす　芦舟

若水　若水やまさとう清しさ梅の花　貨僕

初暦　何もかもよし聟しくとまつ暦　青蘿

初夢　初夢を賣て酒のむまとゐ哉　兊堂

書初　蛯の子の何えおよて筆初　鯉尺

門松　来る年の庭木に添し門の松　石芝

蓬莱　蓬莱や祷かしら鶴歳乃子孔　玉蓬

水祝　汲そへハ見え匱あり之氷いまひ　花径

万歳　万歳に逢ても寒さ聟申ハ　楽水

猿曳　猿曳や杖つく翁も君の爲　石芝

子日　鶯の巣によこ引く松も子日哉　梅寿

小松引　かそいろ孫来し聟もえハ小松曳　護物

七種　七草の唱哥とゝめるや少し男　白養

若菜　若菜しよく見ん田舎も若菜の雑れ家　露中

蓊　　陰九の唐もかつら　蓊の夜　莫二
芹　　雪よりハ風のさむしや芹　畑　雨塘
飾焚　　かさも焚て花水橋も霜とり　雪人
養父入　　数入や切燈ともせ連の来　木朶
御忌　　猪さゝ蟹暁もあし　猪忌七日　升六
余寒　　土瓶よ胡粉のゝこし余寒哉　道隣
春雪　　老松のくせもの雪もく春の雪　白養
淡雪　　淡雪の押むろけゝる　聖山　我雪

残雪　　流しあや雪の沛ひし多の上　百嬰
雪解　　鶏のこゑ水を雪解の力ゝ形　義香
長閑　　出宋さの秋も有ゝそ子の月　南汀
陽炎　　沖岩や雪のすく家ハ門ゝかゝ　山子
糸掟　　糸掟よ限ひ雪ゝ角を高ゝ雪　其堂
霞　　ゝ〳〵牛の塩ホ雪ゝや霞む雲　燕淩
春風　　雪ゝの坊ゝさゝゝ春の風　柳翠
福壽艸　　見しゝゝゝゝゝの雪の福壽艸　葛三

梅　うぐひすや畑井の芽の梅さくさ　菊塢
梅月　横よ這ふく蟹も出るり　梅の月　斗入
散梅　ちるかとハ咲　白梅の小家ゝ谷　梨翁
柳　太よ逃ふく鶯ハ　ゆるゝや南さ式　几董
青柳　青柳よ糸のふ糸　ちさきさり　弗水
梅柳　梅柳糸浦　ゆるの　大ゝ式　はゝ
椿　むゝ家の椿ゝ咲　日も遠ー　石海
木芽　芽のひまや鳥の啼ちさ　木芽時　白年

春草　年よれと宿よ居ゝ毛ハ青の草　寄渕
草萌　萩よ面さひゝ芽ハ　萩そむる　可盈
落臺　松毛の卵ぬく　ゑよ蕗のとう　南井
土筆　何よすとふく　て土筆ハ生まれり　炉扇
百千鳥　花の末や百歌　くの百千鳥　保吉
鶯　鶯色ゝ鶯ハ　ゆゝられり　蟹守
雲雀　雨のりも一度ハ　なる雲雀　可厚
駒鳥　立旅のちゝ　借よゝ駒鳥の　雪彦

鶩　鴨のあしもかまうて鶩の蹼　蒼虬
猫戀　恋猫や鳴あたまうつて私ノ且
白魚　しらゝ魚ハ水のあらひし器もの　玉光
蜆　土左見しなりつまうしらゝ汁　壺半
海苔　うまもあしや海苔よかゝる磯の垣　草史
衣更着　ふうらゝや色小ふうらく小商ひ　壺半
初午　うら午や江戸一えんのうる家　鵬翁
新能　男ら代ゆえうふ能の音のつまり　琴亮

涅槃　涅槃会や睦月も爰のぬくもり　李竹
彼岸　笠の戸ゆ笛ゆえ彼岸の入日哉　蓬山
二月堂　法華を二日灸て延しけり　長羽
出代　寺町や蔬搗ゆえ出代に　登秀
風巾　夕暮と寒ふうら風巾のすハまり　梅價
朧月　出男けゆえ嵐も出しゝ朧月　石雞
春日　残ふゝも孫子つれてこの春日向　李尺
春夜　まつの春のくさや春の立しゝ跡　星譜

春雨　世々里ふるぬるるの雨　女子俊
春山　凡定めさかう小もなのうに妻の山　可來
春野　茅の戸ハ月をさ世ちて焼ふう　菖三
春水　引くくる芹の古根もそるの水　雪雄
山焼　焼るうと霧ふこそもれ山のさ　雉扇
紅梅　石奔ハ佛くさくもふうをけり　成美
花待　月遥さ木ろ花を待夜ぞ　士朗
初花　初花や鶯の巣ふうに老木ふう　東芽

初櫻　ふりさふ濱の名ふ宿うに名　陶里
五形花　程ゆう代くくはのりんけ花　雪彦
連翹　夜くふ連翹ふる一面に　万和
蒲公英　ふんぽゝ一目ふゆる豆と花　乙二
茅花　山雀もうへ里ふ度う茅ふとふ　孤山
芦芽　一ふくの衆ふもふしや芦の角　壺半
接穂　春深うふりぬ接穂の菓のこふれ　窻南
菜花　あの花やそちくふれを月の暈　對雪

早蕨　あらしのや小松の丈のあつうして　旬光
枚菜　いさゝ井の屋もしもつ門の枚菜哉　東鶴
繁縷　ちゝ屋吳入る據よ繁ぬ日もあり鳥　鶏周
畑打　ちゝ打や和日嵐して鳴千鳥　義香
苗代　苗代の鶯場もようけて家の根　可磨
鹿落角　角おちてさつうけし鹿のうゝ　餘爰
雉子　雉子きしの岩栗もかさうけ鳴　方馬
帰雁　一羽侍ゝ雁ゝ明屋ゝ　暁河

曳鴨　曳ゝもの素素素ゝ番ひうちて　東鶴
引鶴　宮一聲ゝ　ゝ鶴の名残哉　貯江
乙鳥　つゝゝ乙鳥一すのうへをゆく　嬾来
鳥巣　鳥巣なるも家さふ所そて巣を鳴　葛三
雀子　子とよふ雀の声ゝふゝある　乙二
初蝶　初蝶や焼しく曲る里のゝち　ちけて
蝶　花ふものひとゝするこゝ哉　李峰
蜂　三日月や花侍蜂のうへ星来る　百嬰

蛙子　蛙子も柢本よりしらまへ　塚　可麿
蛙　山吹を植られをく蛙の那　袁丁
蛇出穴　蛇穴を出るやうに世ハ花の子　松欣
田螺　西川の杖のたとえ　時田　環　真澄
弥生　花よ別る樣子ある弥生　阜池
鶏合　かゝる鶏の抱られるふ也　午心
曲水　曲あやるれの環も老う新　茶静
雛　雛の戸も儒をもてを雛の宿　其堂

汐干　なさるの下陰汐干の小口哉　鹿古
峰入　峰入やうゝ山しさを忘るゝ　月化
別霜　雪松も知さるゝ　りられ志と　黙翁
永日　永日や砂よ波うゝ面波れ　涼濤
春海　春の浪うゝてハもとの海とる　羅外
花　山陰さ景るものゝ知るゝ哉　芳居
花雲　山伏のよく宮免るゝ花の雲　可壘
花雨　人なるよ濡るゝもとゝぬ花の雨　可翠

花雪　けぶりもたゝれぬ木ぬれの雪　棹歌
花見　妻とらぬ花莚ぬ[illegible]　尼星布
花守　花ちる垣ぬ[illegible]　素[illegible]
散花　入り[illegible]　山家式　素[illegible]
櫻　山人の白ふる[illegible]　武山
山櫻　ちらぬ人の折[illegible]　山櫻　午心
遅櫻　引[illegible]　あ[illegible]　化龍
散櫻　扱ひ　風の[illegible]　鳥流

桃　[illegible]　柳のまゆ　石芝
梨子花　梨子さ[illegible]　利雪
海棠　海棠[illegible]出[illegible]　[illegible]
木瓜花　木瓜[illegible]　[illegible]
山吹　山吹[illegible]　伏家式　竹馬
躑躅　[illegible]　小桃灯　素共
藤　住[illegible]　[illegible]　士升
草　[illegible]　[illegible]　暁河

母子草　垣根まで因水引りてこと葉　雉嶺
青麥　青麥や乾くひまなき山の雨　一肖
呼子鳥　滝をやまひく扇乃ちふこゑ　摸伏象
茶摘　法もはや茶の木ちるもむつうき　一瓢
蚕　帝蚕うてやく人の世年連多　亀文
麥鶏　面をうつ光えもあし麥うつ　鶏六
暮春　知る人のふへしれそ春のくれ　食彩
行春　別れる也春乃別れ市の人　存阿

夏之部

立夏　反ふれや春雲陽さ鶯う宿　草夫
卯月　とこへ別るるそ卯月弱山陰乃　平雄
青簾　きすれ山をうれと思ひ乃　南井
更衣　長吟を宿まうえて文　月居
袷　恙すまして人なれしうふ袷うな　秋峯
日傘　本堂ふりまれて恙ぬ日うかさ　清風
扇　川舟小四五本ち恙き扇う那　塊翁

團扇　家ごとの雲扇うちなびく　鳥頂
新茶　ひとさしさ茶のとの年ゆるふるく　其芳
筑摩祭　あへ祭ふ事はむ花も咲くを居る　竹児
葵祭　さひしさ色霧もうつのまぬうけ葵　竹馬
灌佛　灌仏の雫も夜の夜あけぬ　外六
昼寝　昼寝をとゝ夢ぬ日さしや遣ふ　政之
短夜　短夜のとゝ夢ぬ庵の夜　宗巴
夏夜　夏の夜や集る松の蔭　麻彦

夏月　夏の戸やおりふし遠き夏の月　雉扇
夏山　夏山やうへほとゝもわとの家をゆる　壺半
卯花　卯の花の比も火を焚山家ふ　女良
相花　とゝる家ふとゝ手する家や相の花　衣丁
橘　橘の実を動く屋の小垣ふ　古川
茨花　茨子の初起習ふいとうる　扇和
若葉　片ちや葉うふりてあく驚　五陵
青梅　青梅や降屋ふとされぬ年もゝし　菊後

若楓　つう楓あまり小雪霰白雪を通る　東陽
牡丹　月あるの牡丹られる花屋敷　鳥翠
芍藥　芍藥や西の方茅はく下の家　聽雨
葵　花あり葵の卯花八孫あり葵しうり　雨塘
罌粟　月の夜を懸の罌粟ひしし弱花　五湖
苔花　苔の花西乾くあるを咲まりり　鹿太
杜若　杜若さくや芦田の水のくま　東陵
木茂　川の末ふさ形まる岐阜あり　春鴻

大下圖　汨舟ハまさ去まそ去ぬや木下ぬ　貨僕
夏木立　川音の下まうるあ川市立　宗古
麦秋　くくき夜の片里白し麦秋　帰来
茄子　芋の葉まる一秋をてん初茄子　巣兆
覆盆子　抜しし子ハ人まあるまり最いちご　秋峯
杜鵑　時鳥あくや燈ゝり入るちうう　茅磨
老鶯　鶯の老しし家宿やうう岸　掉歌
鳴鳩　かんこ鳥寺や山田の水まる　鮫山

鶏　鶏の子の子ハ知るらん谷の坊　西義
鶏飼　柳水灯を重ね鶏うひうゑとちちち　蘿文
松魚　父母の笑顔焼しや初松魚　鶏山
蝙蝠　うハほうもを見程所乃相業　竹馬
蝸牛　家もなく我こそ伝る拍牛　恒九
子子　ほうふもの孤うし流む　松葉子　林系
行子　垢離とりの石塚しや切こ子　青岐
蚊　蚊なきく先の拳の月恋し　河厚

蚊火　蚊火うすも痩るうち庵の嵐とも　牛乳
笄　竹の子ハ子も家名ふるやしさ　有月
蠅　蠅をうつ時ハちんさきうち孤　雪雄
幟　松ぬや上杉殿のきれの涯ぬ　袁丁
粽　粽も寄もきのうこ集て稼る　青芝
競馬　ホうくれしき女房や競るの日　護物
菖蒲　花うきの元廣けりる菖蒲哉　蕉雨
帷子　うさ引しやすくれ出物して紙の月　凡二

梅雨　花の末も伐るこゝろ入梅の雲　李尺
五月雨　五月なゝ一日さえぬ蚊のなくと　李長
五月闇　駅路の昼をなくとうさつき雲　得雨
早苗　若ひ出しうゑ苗とろ見る冥加哉　椿堂
田植　水に手束押曲を田うゑあゝる　卓池
早乙女　うゑ人をなとゝ女うゑふゝうゑひろ　不根
若竹　つゝ伸せ田あとゝもゝるゝ下ゆさ　蘭魚
合歓花　その高も張るゝ夜昼とさくゝ合歓　亀文

撫花　美美さ良ゆ　撫の子和の張　玉甫
栗花　うゝさ旅とおもひ佐く見ゝの花　一蕙
紫陽花　なちされの変ハ来ゝ山の町　春長
百合花　ゆりの色男ゝゝとゝさ　芳水
夏菊　あつ菊ゝ西日ゝむゝる　玉光
撫子　夕ゝ来ハ三ゝ撫ゝの川原哉　武陵
紅花　ゝの到しゝ搗こゝ花ゆ石畑　雄
藻花　羽衣をつゝれしゝゝゝ藻ゝ咲　太節

萍　萍や欲をそなへし人数上　亮九
青芦　鳴るのうつゝ義士芦の面　乙二
川骨　河岸や柳まで咲しそなへ市　保吉
葵　小ぶりなる葵やそなへの葵　重義
水雞　田一枚ひろくさの家やそつ水鶏　晋峰
青鷺　青鷺の身ふるふ風の墨ぬり　知方
螢　君来ぬや葉陰の螢ともの弱き　菊成
火串　ぬるる串鹿や限むらん　麦洲

南天花　南天の花や月さえ窓さまり　亀文
水無月　水無月や雲の栗八日初くち　芳居
氷室　氷室や宮寺清水ようけもと発ぬ　輪之
富士詣　初日不二日拝の雪のつえ　護物
祇園會　祇園の児笑ひ顔も修ぬへし　何九
祭　鮓ゝも初ゝ祭の太鼓哉　樗良
土用　蓼の端ゝ小蛙さしる土用哉　岩甲
虫干　虫干や方あさ世の拍ゝと　弗水

暑　めつる日やすゝむさの小酒より　あけぼ
夏日　夏の昼ながるゝ雲や雑魚の雅招　井眉
雲峰　山人の杖てゝ見るや　雲の三称　晋峰
夕立　夕立のそるれそゝき山路哉　武陵
青嵐　青ゝ北山の雲　冥月
風薫　薫るゆも清くきやうく松の葉　葛三
涼風　涼しさや鳥とつ吹そめて　成美
納涼　うの隠や寒ゝて夕涼　女あう

清水　猶をもひまれハきぬそ清みくむ　菊塢
洒井　さゝゝ井や秋の花のちるまゝに　凡二
葛水　葛水や家をひまれしなるゝ背　完来
一斎酒　月うれとハ郭をなるや刻と秋酒　風谷
筆　寂てゆれを拭て千くしたゝむしろ　日友
竹婦人　竹婦人こゝもこゝの小野しろ　暁翠
夏痩　夏やせを見ぬ者の多哀哉　素孝
蓮　月も日も行こすゝ蓮のそゝ　袁丁

夕顔　馬洗て門の月夜やゆかさむ　縣郷
昼顔　初昼の夜やまつ出張しかし厠　市栄
葎花　花むらに打角吹くに任せより　指風
麻　麻越て屋とゆふやこのらさ式　幽季
瓜　麻さらぬ瓜も枕をそらに名　けり
夏草　夏草やさらぬ名の糞　大巣
夏野　一歳もてこハ行くるに夏野式　菊所
青田　行送るまこの田や風の波うり形　東圦
田草取　ちの養る路ゆも似うり四葉うり　霞湖
川狩　川狩や見えるはんハ柳の末　都克
翡翠　うとせこそ渕へちる白の紫の戦き　菴十
蟬　蝉ゆくや雅治うにるも見る比　文貫
夏虫　名を新しのハ何まを虫　名の虫　不騫
御稜　山藺の蚕も涼し　みそさ式　麦花
名越稜　うとへうこハ松をくらん　名越の夜　雪麦
秋迎　秋ちくゆるや　古家の中うり美　仝

秋之部

立秋　秋くれぬ　土卯
初秋　そらつ鳥　葛三
今朝秋　なさけ　東李
天川　後ちらく　乙彦
七夕　七夕や　茶静
星合　彦星も　一慥
盆　草の露　泉帰

盆市　草市や　雪雄
盆月　大豆の　石芝
迎火　迎火や　掉歌
魂祭　魂祭　李通
施餓鬼　奥の　鷗里
墓参　墓参　楚狂
燈籠　燈籠　碩高
高灯籠　高灯　柳几

送火　送りても猶見らるゝかな焚残り　みゝし

踊　闇もあかき世界や盆をとり　亀洲

花火　跡とのく花火も男なれ仕舞けり　兎水

角力　投らるゝ罪か白髪よなるかすまひ哉　五陵

残暑　蜀黍のむつかしけなる残暑かな　実松

秋風　光書かゝ柴折音や妹の宿　大常

稲妻　いなつまやかくりとしては袖にしむる　弄山

霧　露まもし帰りて霧にまきる生けて　やゑ助

露　広く見ゆるもの中そもく草の露　川二

桐一葉　まさ翌に落る音なき桐一葉　俵松

柳散　哀れさをちらしに柳散まかり　甘行

萩　露萩やちる音のしてたかなし　寸陽

朝顔　起るたよく咲也よ翌もかく待　蓬杣

女郎花　夕かけをそらし起かけのおもて起へし　双湖

薄　雅すゝきよりえに隔れて芒なる日の　蒟庭

尾花　尾花ちる雲をまさ出る夜の月　草臺

荻　荻のうへまさごに月夜の影　菊也
蘭　石菖も飽さすられや菜の花　茶静
芭蕉　吹そへくゝ夕ゆふすゝる芭蕉哉　晋和
野菊　さびしさも丈そ来て植し野菊哉　盡風
秋草　昼顔のとりはさみあらはさの草　濂川
草花　苗をふする兎の巣ゝも美の花　鱗〻
早稲　子稲の多よ美よ雀の家つき　宜彦
冬瓜　寒くのふりぬる味よ冬瓜汁　双湖

西瓜　ふり引も腐斗もうつゝぬ西瓜哉　夔南
虫　草の戸や白も盥もむしのこえ　万九
蟇　それかそふそもよきそこそすゝ　月蕉
松虫　松むしや雨ひとれしる岩の下　孤山
鈴虫　すゝ虫よふりし秋の油煙哉　啓山
竈馬　芝栗樊そやもぬや暗いとく　弗水
蜻蛉　かちくゝと胡麻売るるうんはか　一峨
蟷螂　蟷螂のくる笋哉　輪之

鯛　むらしやかまるしせまりし　曉の蟬　菖三
秋蟬　秋のせみ　とうとうて　日うけ　彩　東一
落鮎　秋の鮎　赤紫ふ　流きうれ　ふりり　春谷
鰯引　小鰯の味　ふるゆ　月見る　梅壽
八朔　八朔の越　月の町の寺　禾木
放生會　立ちらぬ　ちらよ　放生会　一巣
待宵　待宵や　月さび　中の　の鮎　輪之
名月　名月や　更て　ちさ　井火　鳥章

今日月　晩を後　ちて　月　士朗
良夜雨　ふるうけや　雨の　ふり　素龍
十六夜　いさよひを　待も出　ちる　花菖荷　紫明
月見　戸ひまて　汐さす　宿の月見　月　撈良
月　月ふく　聽るや　垣根の　ふ　路堂
雨月　雨ふる　それさ　人の　ちる　成美
秋月　生れる　日ふ　ふれ　秋の月　蘿文
初汐　ふり　汐や　芒一　もと　ふの　蟠

秋日　渺る秋の日和さゝやかや稚苔ふ　五縄
秋夜　入るも野のひるゝ夜や秋の蛍　木芽
長夜　かゝる秋の歯のゝ〳〵意俗木突　ちゝさ
夜寒　夜寒ゝのんくよすゝる弁山うな　可厚
肌寒　ゝゝ寒ゝゝ光を抜のかゝゝ　真蓑
朝寒　朝寒ゝ日和もて暮る京の陸　掃石
秋山　秋の山豆名の眼さゝおろゝ　乙二
野分　狂ゝ垣根ゝ　[illegible]

搗衣　衣うゝ書や渺茅のむうひ月士　鶴巣
紫山子　見ゝ雲ゝゝ侍月の菜山子うな　曾牛
鳴子　ゝゝゝゝの雲ゝ鳴子ゝ　棠翹
引板　ゝゝゝゝ峰ゝゝゝ引板の書　菊塢
稲　稲の匂ひ天の川ゝ動く秋そ　晋峰
田刈　稲ゝゝ舟ゝ舟のゝゝ　笛ゝ
干稲　稲干ゝや人ゝ進ゝ稲のゝ　晋峰
粟　鶏の鳴ゝゝの月夜や粟畠　呂水

芋　麻売の着よそをさそふ子芋哉　冥々
零餘子　信濃より出る庄番のむすこ哉　雪橙
柿　葉枝の墨の付るもの子うる　春葉
蔦　冬ちりさををとゝまりの蔦　茶静
初紅葉　初もみちりくの二枝ふもとるあく　亀文
芙蓉　友の俗の寄沈ふる敷芙蓉　香夫
刈萱　うるゝのうちまるや山ひからり　袁丁
雞頭　夕ゝけふもゝ高る彩や巣けへゝう　其翠

花野　うちはけふ風の紐ゝく花野哉　壺半
秋野　妹の世をちる人霧ゝ数ゝ秋の　秀哉
鹿　ゝゝくゝ夕やゝ秋の鹿の寄　淇石
初雁　雁の来ゝ古むゝ菅の小池哉　茶静
雁　雁の寄猿の寝覚ゝ夕ゝ　太夢
鳴　夕雲のゝ鳴ゝ時の鳴　斗囿
鶉　真行の冨の教ゝ鳴ゝ　蕉雨
啄木鳥　木つゝゝのゝゝ木ゝ寄ゝ　月化

鶺鴒　鶺鴒のそこと居訓とかりもあり　三化
木綿取　佛あも初穂といふの木綿取　乙二
新酒　里垂や恒ふ寺のこうし酒　恒九
重陽　馬の尾もられ月　九月九日　乙二
十三夜　月うつや糸うつ虫　十三夜　太祢
后月　居酒のむうすもあとぬ後の月　菊所
秋雨　山川へ影よ濁るか　夏乃ひさ　雉扇
露時雨　露ふくれうつ糸の白ひ式　露竹
秋時雨　涉茅ホとふるく秋もあるうう　土朗
露霜　露霜や篠ふ先ふる鮫ふ　一肖
紅葉　もみちする山ふ宿うれ　宵寝星
菊　菊ふ寄や鞠　切へ通ふ菊の酒　亀鱗
木實　木瓜の実のこるる月夜く式　蘿雲
栗　起彷て山うふや栗ふひ　菅六
椎　椎の実や門にこぼる瓜上ひ　茶静
茱萸　ひうう海ヨ茱萸の寄ふむ秋風式　輪之

松露　六代のうき雲の松の露代　楽只
落水　新堂の松世ふるやなるの水　蜂友
細代寺　のこし諸寺松の年貢をかこちより　草夫
菌　湯の巣より月うけをしむや菌　鷺渕
梅嫌　淄捕の水ながれて梅もとゝき　蔦也
行秋　金牛の下窓や秋も二三日　仙胃
暮秋　おもひうき秋ながつもあつて妹の雪　壺半
九月晝　山里の油ふきとる九月晝　列山

冬之部

神無月　日のかゝる古筏こせや神無月　朶年
神留主　海の底ゆ金沙くしさよ神の留主　女雲
蛭子講　蛭子講うそ吹く良ハあうもりり　石芝
玄猪　ちゝこ屋も白さ巻こす玄猪　詠帰
達磨忌　達磨忌や人の月日ぬ五日月　午心
大師講　孤しうあるまむりのや大師講　亀文
十夜　念のこゝろの重りて寝る十夜引　露笠

御命講　由命講や俤よ親くるさき　一肖
御取越　亡八屋の掘炬燵　完来
芭蕉忌　命日武者くるるも　歌ぬ翁の日　金爲
小春　奥住む水もうるおく　小春哉　南井
冬日　蟋蟀すむ里のあるれや　冬日哉　東嶋
冬月　橋ゑ雲くもくもあり　冬の月　李冬
初時雨　石蹴よぬるる土の名なれや　初時雨　茶静
時雨　降るうの音聞て居るまくらかな　備来

初霜　初霜やさくさくさくさく薄　孤山
霜　かくれ家も人目ハうれぬ笹の霜　壷半
初雪　くれ雪や鶏子ゑ歩ん家ゑ　人杜
冬雨　かしこまるて来ー〜そのう冬ぢ雨　旬光
木枯　風や吉くつれしく鳴のくる　紅邨
冬枯　冬くれよ石ゑても蛙ー〜清水　登彦
寒　弁慶くゑ小雪くちう山の月　旧友
冴　冴る夜や夏もとゑ来よ　一肖

脇　勝うく沈香をたへ針のこゝろ　嵐吹
煙　煙をうつす　ゆらぐ　濱崎うの　鷗里
爐閼　炉ぬりくさを爐ようけうる釈の像　五明
口切　口切のひの日切をうつて茶湯小木　香彦
巨燵　敷の言の書くゝ文ゆく巨燵ゆ　琢帆
冬構　高穂ぬく崩のうちも冬構　茅丸
冬籠　冬籠はしをのあろ口もれう　其成
埋火　埋火よくつれゝ知らう云　茶静

火桶　一ゝゝ文ゝ中桶を出す家越うる　玉珂
火鉢　白雲ゝ舟まゝ崩の空陣式　茶静
炭　雨をさく夜のもゝゝゝ岩　李長
帷衣　ゝゝとう文ゝ見ゝゝ見られゝうこと　女子
蒲団　弥もあさ月の小舟や蒲団　東一
頭巾　人ゝろ月ゝ形巾の形もあゝし　夢南
納豆　彩月や伽も豆の納豆汁　溪鶯
山茶花　山茶花や山家ゝ風の吹ゝゝろ　少年李宙

枇杷花　咲菊　東湖
茶花　東峨
帰花　石芝
冬牡丹　鶴老
水仙　さち雄
寒菊　東一
枯尾花　卓池
冬草

枯芦　三磨
麥蒔　蕉雨
大根引　禾木
蕪　蒼虬
木葉　五縄
落葉　凡二
冬木立　文竜
枯野　瘦菊

冬山　名ての高の霞む日もなう名ての山　菁野
水鳥　水名ての流るさまもまさく文すなう　居多
鴨　屋さまの鴨見ゝさまの　遠入戸にう船　乙二
鴛鴦　鴛鴦やとゝく雅きくの花の蕊　文陳
千鳥　川千名ての名れの名ゝ名ゝ名ゝ　介立
寒苦鳥　山椒の木ゝ実ゝ　寒苦鳥　菊後
鷦鷯　鷦鷯の家の家ゝ　鷦鷯　北元
冬蝿　世の中とりまれて居まれ名ての蝿　文賈
木兎　みつくや文ゆく里の梢くそ　茶静
阿豚　艱さけて作の中居ゝれゝ子七　白雄
艱汁　艱ゝゝく出れて松の月夜哉　阜二
生海嵐　笠ふ門へ投ゝんゝ　ゝまゝ　卓池
杜蛎　ゝさ初稱ゝ名ゝ名ゝ名ゝ二日月　掉歌
網代守　いつまでを繋ゝ山ゝゝゝゝ　東一
霜月　霜月ハ南天の実の日和ゝゝ　左学
冬至　冬至ゝゝ冬至の門田水　茶静

天雨　子祭よ　隣の宝　うとへけり　律山
神樂　木兎の鳥　灯のさす　祢宜　岐山
吹革祭　吹革　場も多　多る夜更ぬ　自在の灯　護物
御火焼　焼さうよ　居る　熊治屋を　やう焼　雨蛤
鉢敲　木枯の　身ハ淋　やう上　ちらきき　虚舟
寒念佛　乗くと　移る夜を　搾て　寒念佛　雑扇
報恩講　うくと　奥吹　ゆく　唐　月　蓬山
[illegible]見セ　昆布の　多も　良　[illegible]　碩家

雪　雪の夜　乃　多　多　戸に　巴蛍
雪用意　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　川二
雪見　柑子　と　[illegible]　[illegible]　家鶏
雪吹　雪の巣　こと　[illegible]　[illegible]　巽我
霰　山　[illegible]　[illegible]　[illegible]　蕉雨
霙　芦の　多の　雲も　霙の夜　[illegible]　鶴老
氷　折く　へる　多　刈　畳の　[illegible]　晉記
氷柱　氷柱　す　巣　色　多　家の　蝶　亀丈

凍　いてる夜の水もあたし　天の川　禾水
冬梅　山茶花いちはやくもあたしあるの梅　草夫
寒梅　冬梅ハうとてるるの多さう那　一肖
冬椿　小一月さく色見えてあたる　對山
鷹　ふりむいてあたるくあるの居るり　輪之
鷹狩　鷹る匹う東ろ左　ひるあ山の月　篤老
殘鳥　吉のまぬるるのの降来て鳴めるる　扇暑
師走　育ひの藥形よ入し　時変うな　茶静

川びうら
臘八
仏名
事始
入寒
寒雨
寒月
藥喰

貫之ホト戸の沙法ホ　川動るも　護物
臘八や峯の形日の猿ひとす　槇立
仏名ひるるホ鼻うちうるて　法師名　暁臺
禄ホひ蒼う出ホ来ひ来ひ免　烏旭
冬の入雀の藥変法くうあし　樂水
新めるる外のまるさや　冬の夜　品水
寒月を戸ホるるさむ山家うあ　喜山
ひうの形も見ひうしまん　茶　喰　春鴻

乾魚　多さらや乾鮭そうば磯の打　砂亮
年内暮　松賣ゑ来ぬよまさ川井山うま　俚言
追儺　さりとのをらん花やう年の豆　玉光
焚炭　焼ホふらし炭うりとへと云もやう　金彦
節季候　炭屋作や松おつくるる小猿まて　玉珂
煤掃　すく掃うまさ四隅のほうら氏　茶静
餅搗　もち春や例うてくる度ひの唄　壷牛
衣配　きぬ配ゑ漂毋の信の沙汰もやす　東皇

年市　紙形の華ゑ袋ゑうし年の市　うめ
年木　年末庭むらうや春の杜　和調
年忘　年わすれ行く風もつ夜こけゑ　太柏
年用意　人こころく木ゑの家のうし用ゑ　宇橋
古暦　ゑちうゑの役ゑうるうるゑ　栄枝
春待　一月はくまゑを待ぬ思くさし　紫金
来春　来うまうの役ゑせるゑ丘の草　淡水
行年　ゆく年や原田ゑまうゑ路の狂　古岳

岡見　番茶よ昌月んもとりそなへしむな　護物
年籠　とし籠んをもちて孫もおし　竹児
歳暮　やしの苔鬼も耳をそそりたり　其白
大晦日　むつりしや年のほまりの法老の髪　一我
年夜　とりの炭やすりの旅人出て歩り　鷗里
除夜　きぬを裂き書やり除夜も更ける　孤山

掌中發句五百題

春之部

春秋菴白雄　著

元日　元日や神代の事も思ひ出る　守武
門松　門松の為ふもとの雲　去来
蓬莱　蓬莱ふ児迄かるる多てたるよ　山店
今朝春　袖すりよ松の紫笑る今朝の春　梅舌
立春　去さるやと釣の雀の額つさ　一髪

若水　若水や手に掬ばれて落る氷　武仙
初日　濡色や大土器のそこの日の影　任行
花春　美の妻連舞さゝぬや　古袴　文鱗
万歳　若菜や左右ひゝけて松の新　去来
初空　そこの空や鳶とのさる牛の鞍　嵐雪
着初　母うゝち紋をつゝしや着て初　山蜂
初夢　そこの夢や濱名の橋ぢ今のさま　越人
歯朶　うゝ白もたゝ新年の既の影　明及

子日　生親根ゝ松ゝせゞ勢ゝの子の日　観水
小松引　明くや小松引　壮の　繋さ馬　重政
若菜　初市や雪ゝ漕　漕来るゝ菜　紅蘭
七種　七種やあゝ和うゝ　明鳶　其角
蘿　ぬゝと色や蘿　溢る　上ゝの所　嵐雪
芹　芹掘ゝて洗ゝ　洗ゝ　且藁
梅　灰捨て白梅ゝ　ゝむ　垣根ゝ　凡兆
紅梅　名梅の日　別て新の　赤ゝ　如行

柳　源うやり翁うくるく　押う那　郷梅
朧月　朧と松の思さと月夜哉　其角
霞　霞うと又〻来る雲のかなた　石口
朧夜　綯歌と白酒夢の名残哉　支考
春月　清水のうくうと出り春の月　許六
雪解　古寺や雪汁うく新狐子哉　釣雪
残雪　残る雪比良の岩〻笑へり　正秀
雪間　仲堅と抱む蔡も形き雪間哉　其角
春雪　春の雪雨うちまじるゆるく義あり　一笑
糸遊　糸遊のいとあそふなり虚木立　氷圃
春雨　春雨の弱き茅の屋根哉の雨　荊口
東風　東風吹や浮橋並ふ沙境　野水
陽炎　陽炎や夕日ふ山ふ山ふ山ふ　舟泉
長閑　のとかしや瀧の畳乃生看　荷分
春日　春の日や念仏ゆるき野寺哉　尚白
永日　春の日や油ナ木のゆるく音　野水

春野　去の野や去さ蔓の張り伸く　來山
春水　去の水和く　千えゆるく　鬼貫
春梅　青海や太鼓ゆるまる梅の春　素堂
春艸　色く〳〵名もまぶる〻春の艸　珍碩
若草　若草ホ初言かまし　や明るくも　所坡
浦公英　あんかや去さぬ宿の忘れ菊　山店
土筆　まつ〳〵と擂や　はまぼや土筆　去角
蓬臺　蓬臺のうけて孤の根のあさら水　爛遊
剪　川磯のとまり孤さぬあさら水　李吟
莖　我独のすこれ去ある壮蓬臺　信昌
菜花　裸子ぶ菜の去ぶ濱る日和り水　生林
菊植　菜の名を忘れ去ぶ　山店
杉菜　麻畠ふ杉菜の生る于浮り那　沾德
蕨　一尺の蕨の弟や　松解　猿雖
芹角　川淀や泡を休むる芹の角　野徑
蕈　去ぶ為そ蕈を炮　とる　明遠

麥青葉　緑おもき青葉の書ぬ嵐の形　仙化
鶯　うぐひす打ちぬ安そめてより山路哉　式之
鶯　うぐひすの帰てとまる嵐の那　間指
駒鳥　駒鳥の服乃さやぬ薄ぬる根哉　傘下
雉子　世の中ハ何のちから雉子維ふ武夢　卯七
鶉　子や待んあまり雲雀の言わるる　杉風
玄鳥　巣乃うちや夕を細うして親燕　峯嵐
雀子　巣ぬうちうち籐消ぬ申む落うか　舟行

鳥巣　鶯の巣の樟乃枯枝ふ日ハ入ぬ　九兆
麥鶉　麦除き乃を撲さる鶉の那　沾徳
雲入鳥　雲ふ鳥何を見ん法華て這入ぬ　朱拙
帰雁　たち騒く今や紀の戸伊勢の原　澤雄
几巾　巾のわとひくく渡る小川哉　舎羅
猫戀　家入手や月ぬ猫の恋　探九
初午　青空や初午ぬ根安守　沾荷
彼岸　何をまて彼岸の入日人ぬ　鬼貫

涅槃　尾ゝ子の尾ゝありたる涅槃ゝち　彫棠
出代　出代や秋ちゝ孫ゝもの春ゝ　嵐雪
藪入　藪入やおわ孫月末の酒の酔　専吟
如月　きさらぎゝきゝの名残ゝ茶喰　浦之
寒食　寒食やその日ふめるる佛達　立吟
冴返　けゝゝゝる神楽ゝ孫の星巨燈　泥足
焼野　ゝの引焼野の張や風の末　猿雖
獨活　うゝの底ゝ底ゝ岐の底ゝ　山川

鹿落角　鹿落角ゝ沙や廣野の廉の角　澤雉
椿　やゝゝ椿ゝ見ゝゝや椿の脇の穴　洞木
若緑　むすゝゝ道のゝ松や若緑　涼苑
海棠　海棠や蛇の脛ゝ　普船
木瓜　木瓜の花や木瓜八蕊乃浦合　沾徳
木芽　なゝんゝゝ風ゝの木芽ゝ　露沾
指木　ゝゝ柳唯雪ゝ面白ゝ　一笑
接穂　笆垣を接きて　沾徳　起石

余寒　のこりけしやゆきのあまりも　三ゥ一　利牛
蝶　傘弦の眠ひ胡蝶の宿りかな　重五
虻　人も来て紙さす日をまつ虻の声　星泉
蜂　蜂の巣の親いらぬものの　蓬雨
蛙　取ぬちりゝゝ深む蛙かな　丈艸
田螺　もの陰や田螺の空る音ゝ　尺艸
蟇　うき時を蟇の音も哀かな　曽良
蠶　ゝ死ぬ者の羽抜しに蚕　陽和

種卸　種おろす俤ゝ小猫の那　其角
苗代　苗代ゝいそうぬ所ゝ　子英
田打　肩折の始や小田の打起し　意柱
畑打　鍬くゝもゝんゝ園ゝ麓ゝ　去来
白魚　白魚を物ゝひ寄ゝる罠ゝれ　其角
小鰷　鮎の子のおすまし滝乃音　土芳
柳鮠　妻の水ゝ秋の水ゝ柳鮠　嵐雪
彼岸櫻　彼岸ゝてひゝん櫻の咲ゝり　彫棠

初櫻　初櫻のうよ琵琶の濃う那　調柳
初花　初花よ雅う傘そいまゝし　長虹
茶摘　午時の芙蓉あゝや茶摘唄　蚊足
弥生　花角〳〵て卯の花蒼弥生うゑ　山川
峯入　峯入い宮も草鞋の旅姿うゑ　宗因
上巳　桃の日や女使乃ひきゝし　琴風
雛　石女の雛よかゝしたくて哀なる　嵐雪
曲水　曲水や覓の流るゝ清水　角上

鶏雛　鶏雛もいうよ〳〵孔雀合　舉白
潮干　登り帆の清流を形きぬ汐干ゑ　去來
桃　垣の桃猪ゐれあゝの盛の船　灸山
海苔　海苔や何よゝある海苔の味　其角
海雲　海雲よる笞ゑを旭武　峽水
櫻　山さゝ櫻の匂ひう京　仙化
遅櫻　雅う母そ栄よ殊数る遅櫻　祐園
花　芸咲もむつゝ多ある老木ゑ　木節

梨花　馬の耳をかすめて寒し　梨の花　支考
酴醾　炬火小山吹落し　炭弘色　野水
岩躑躅　垣おろし清しの株や櫨のうる　雪芝
春風　春風よ芽ゆるたる森奥うる　越人
別霜　如く病よ法師おき寒の別れ　千那
藤　淮ゝ傘郊婆金ちる花の宮かん　枳風
春暮　心ゝよ山見を物を春の暮　鈍可
行春　ゆく春も白鷺の野の野寺ゝ那　野水

夏之部

更衣　衣ゝ白ゝものゝよ亦弘法ゝ　路通
袷　ちつ風やおゝ袷の肩ひつゝ　常欲
綿貫　綿貫や松風ゆゝるゝ頃ゝ　野水
青簾　ゆゝ文ゝ書き八形ゝ簾ゝ　月下
灌佛　灌佛のその法清し　尚白
花御堂　花御堂乾仮の世乃ゝめゝや　行露
花摘　菓ゝ摘ゝ先ゝ人ハ児の母　言水

夏　　千那
短夜　　北枝
葵祭　　言水
夏夜　　旦藁
子規　　丈州
鳰鳩　　仝
卯花　　秋風
牡丹　　信徳
杜若　　傘下
罌粟　　百里
紫陽花　　鈍可
葵　　西吟
燕尾艸　　半殘
百合　　長虹
茨　　乙州
菱

おもひとも敢とも為すこと夏百日　千那
短夜やそれ人界はあるべき　北枝
葵草かるもとそしらも牛の角　言水
夏の夜や焚火よ篠えんゆる里　旦藁
子規きく滝より上はけまりかな　丈州
鳰鳩やうとと出て帰ぬる采吉の　仝
卯の花の絶間多かん闇の門　秋風
牡丹の際白和つたる　信徳
杜若の日や門提てけつたる　傘下
罌粟咲つ数法師あさましの圃哉　百里
紫陽花のちはあめ下りけりや花の川　鈍可
葵売よ去る里の葵う形　西吟
燕尾艸あめとうふ海の来ぬ日八ふり鬼　半殘
百合叢や百合ち中しく夢の新　長虹
茨美しく人よ人ふるく茨の事　乙州
菱ひ一咲て雅矣服見まる入家

骨蓬　河骨よりのこれり流れうるか　英水
藻花　波うつて藻の花咲く流れ　凡兆
萍　うきぐさや風しづかなる釣の糸　北枝
藻刈　一嵐ちるのうら舟　氷花
瞿麥　あてなしこの花ながく人を恨ませ　越人
夏菊　箕菊や小菊の白の新もえ　策兆
箒　そよぐの砌るうちも義をよりうるそうや小菊　麈交
紅豆　動るなきはぎ　陽和
釣鐘草　花ゆゑのこ釣かねもいまだ　涼莞
茄子　市小屋のさびくく形ちさう茄子　蝶伽
覆盆子　ほどの色てる上を摘ーいちご　千那
葡花　菅の花や泥よりまぬまに青の面　鈍可
芍薬　芍薬や二本形てハ荒ちらけ　杜若
葱　あらしさ物縄よかる葱うか　卜枝
麦　麦の穂よりかうもりや小山伏　才麿
葉撰　狹筵の色うぬしあるく葉撰代　山店

麻　刈麻の玉　傀市
青嵐　青あらし　定る時ゝ満の色　嵐雪
若葉　若葉　若葉　ひろひあつめの山の蔵ゝ　鈍可
茂　去來
若枫　わかの楓　葉色よ形るも一ちらり　幽翠
桐花　桐の花世間　眠きくあるよりゝ　嘯花
柿花　柿中濃古来いつれ柿乃品　此節
柊　人逝き柊の花や村乃ものの　及我

擂　貞擂や定家机のあり慶　杉風
青梅　うまゝ〳〵ら葉ふ梅の一つふ　杜國
合歓　船歌の歌乃唱哥ゝ合歓の花　千那
笋　竹子や児の斷の美〳〵き　嵐雪
若竹　一枝ハ青竹好き竹の葉紫ふ　仙化
夏月　市中ゝ者ゝの白ひや夜の月　凡兆
夏山　噎のあと静ゝ李蔓乃山　珍水
夏野　巡礼の接本乃哀野ゝ　重頼

夏木立　山伏や笈ゆらゆらする夏木立　鉈可

雑夏　卯の花や折てのあとのゆらゆら表　不知

水下閣　下雪や池魚ゆらゆらの蟬の夢　嵐雪

昼寝　山清そのとの田植の後の昼寝哉　可暁

松魚　魚売ハ藤の鞭白ふとり居る那　言水

鰺　旅人よ鮎やゆらゆら屑家の家　横几

川狩　川狩や人の手まねゆく蛍　几右

鹿子　矢の下よ母の乳とのむ鹿子哉　立志

鹿茸　夢立ぬ鹿の袋角　かく上芳

火串　ゆらゆらと出る花おとし火串哉　舟泉

螢　傘をたてて行くる花火　如流

夏虫　叢へのうらうらぬるゆらの夏虫　其角

蝸牛　枇杷の葉やうれハ角をさ蝸牛　仝

枝蛙　雨蛙芭蕉よりうて戦きり　荷兮

蝙蝠　のくるとや蝙蝠出て墨格子　探志

蝉　ふりや居ぬうゆる蝉の夢

蚊　面の雪傘ちらちらと帰蚊うか　二水
蚊火　蚊火や雲とゐる蚊ハいろ川　彫棠
蠅　蚊屋ハあの唐のうちの菴ゝ哉　琴風
紙帳　秋末や紙ん帳の虫に入る書　玄角
端午　ちまきとて玄蒜よ馳ん古墨　沾徳
菖蒲　角捲て半のきはひや菖蒲艸　一境
幟　雲馬の上堤のめらめら帝幟　胡及
粽　文もあくはとうもろこし粽又把　嵐雪

競馬　くらべる行の秋ゝ負ゝ　周來
卯地打　年ふるき人の咄しや市地方　溪石
入梅　刀の御白き弦掛面の雲うゝ水　春中
五月雨　入梅面や何を業よ波浪の人　鞭石
五月闇　さゝとく雲蒙よ下弦ゝ又月雪　探志
田植　晩稲や田順の屋ゝ里同舞　観水
早乙女　早乙女よ弦ひて屋ん笠の弦　閻指
早苗　見てゐや苗のゝゝ里の藏　言水

青田　國井や青田ふきうへの雲の新　許六
秋雞　なる声啼て井をかこる蓑式　河泥
芦雀　鳴ゝ子啼や鮎川の笠ぬ端　土芳
翡翠　川せゝらぎおのれうれしく茂やぬん　景道
水鷺　けり啼て秋杉濤こゑ流の那　尚白
羽抜鳥　羽ぬけ鳥ようや入毒の蓑洗ひし　溪石
鶯音入　音沈入ゝ雲さ鶯ふかさと船也　土芳
練雲雀　啼絶ハ啼ゝ孫ゝ雲雀　陽和

鵜　首ながく鵜の出るの乃なる早瀬ゝ　言水
鵜飼　あまりさえ經本物ゝ鵜川ふ　仝
鳴巣　鳥の背ゝ多ゝ浮巣ふ　啸山
氷室　老の歯のうもゝ氷室保　貞室
土用　笑ふ土用の入ゝ人ゝ　杉風
土用干　笹蟹の仮名書もある土用干　貞室
夏瘦　夏瘦も孫のうちゝ孫ふ　如雲
暑　日の暑鹽の底ふ蟻の那　凡兆

雲峯　麻乃坂の赤くむ赤や雲の峯　史邦
水無月　五月雨や鳥の口より大井川　涼雲
白雨　夕立や鐘堂の日の夕　史邦
涼　月涼し浮洲のうへの雜魚焼　去來
清水　玉笹の二節清水うふ　園女
風薫　風薫る木々の下の石菖　轍士
心太　松の葉をきるに交りの心太　秋之坊
簟　竹ばかり濡のこりたるやう　露底
扇　扇先強のわるかりとかさりや　丹陽
團　魚めるる寺も山まで濡うちは　馬莧
蓮　赤あるるこの水蓮の蝿追ふ　良昌
荷葉　蓮池乃深さ広く深緑なる　荷兮
旋花　ひる影よ赤と白なる機乃旦新　且只
壺盧　夕顔よ山伏見れば暑くるる　專吟
帷子　帷子の寸法いかのるすけて　氷花
夏衣　嬰児や洗濯歩り赤衣　尚白

汗拭　扇形いろ〳〵特〻是汗ぬぐふ　千那
祇園會　月弦や男〻の影の落掛し　文中
祭　弦〻〻まで祭の牛のおそ〻ま　扇雪
瓜　高人形多に見たる兎二番瓜　湖月
御祓　年の物乃茅の輪ぬけ　翠紅

秋之部

立秋　ひ〻〻と来る秋紫初て秋の立　鬼貫
初秋　雅笛ふ井ふ〻まる秋の影　由之
七夕　酒ものとも形〻て酒呑星今宵　去来
銀河　玄象井や天の川かゝる天の川　嵐雪
鵲　鵲や石を切る橋もあり其角
燈籠　燈籠の形きゝ墓人よりうまれ　一笑
高燈籠　高燈籠盆はものうれ程う南　千那

迎火　迎火や獨りとのいふ松うもと　一映
迎鐘　おかぬ名ゝ物しとろうてや　迎鐘　嵐雪
施餓鬼　ゝ名ゝや門もてあらく施餓鬼棚　荷兮
墓参　見る人も今ゝ孫ゝや墓まいり　去来
竈祭　月ゝ年ゝ人ゝ月ゝ竈まつり　雲口
蓮飯　行ゝてもむかそさよ蓮のめし　一髮
麻箸　似合しや小髮ゝかぶく麻木賣　亀洞
胤尾中　年ゝ年ゝやゝ[illegible]の[illegible]　梅氏

生身竈　せ先て魚の骨撰るのこそ生身竈　方山
盆月　盆の月病さうつとつて打ちう　野坡
送火　送ゝ火やうしろ孫ゝの後脇　史邦
花火　去の次ハ[illegible]さうに思ふ花火ゝ　神叡
踊　里踊火ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　安之
相撲　都ゝも住まし[illegible]ゝ角力取　去来
秋風　仇しゝ恥や蛇の衣吹秋の風　野童
初嵐　鶏の尾ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ初ゝ嵐　荊口

暴　あらしてすさまじく海の波立ち雨降る　猿雉
露　きりぎすや秋の野草の起あり　去来
霧　青霧や雁なき渡る海浮　其角
稲妻　稲妻や蜆売とく野の匂ひ　卧高
虫　蓬生に鶉逃んひとりの虫　玄梅
蜻蛉　きぬぎぬや蜻蛉はなれ残る　惟然
結翼　蓑虫の夢たゝ枯る嵐の音　如行
鶯馬　かりがきや鶯逃やる猪の上　孤屋

蜩　日ぐらしや山門を蔭る松の音　調竹
蟷螂　蟷螂のかまくらに猫の寄さる　史邦
松虫　松虫や嘯松の月の明　沙明
鈴虫　鈴虫の嘯そゝふるる稲の秋　桃妖
秋蠅　秋の蠅小巻にまるる秋の蠅　昌房
秋蟬　秋蟬の死ひて売ふる秋の蝉　丈中
秋蝶　秋の末に吹尚まとる秋の蝶　舟泉
蟲　多の下小ちるや鐘のちゝ豆

蟋蟀　草の紫や豆の打ちまきし　荷兮
柳散　落る葉ふ移ちる柳　士芳
相一葉　ぜ〜かゝぬ相の一葉や蕭の夢　吉角
木槿　笑ふも泣くも似さる木槿ふ　嵐蘭
雞頭　鶏頭ハあとめかゝぬ盛ふ那　嵐竹
女郎花　ぜ〜ぬ〜ふひぬる貴の姿ふ　濁子
蕣　隣形る蕣ふ　鳴歩
秋海棠　秋海棠秋をまちの市ふ咲　琴風
萩　萩ハよそれうおめしう萩乃露　李由
人も寝け面戸ふ萩の影　雪芝
野菊　名もゝぬ小艸花咲野菊ふ　素堂
芙蓉　垣の音ふ夕露ふ芙蓉ふ　呼人
蓮実飛　蓮のうへ月中ものこりまきれ　百里
蓼花　蓼沈汲泉のさうしや蓼の花　其角
葛　面白や嶺のさゝ葛ふ　嵐竹
芦穂　一ぞ〜芦の穂ふ井堰ふ　防川

蘭　桃隣
芒　荷兮
尾花　李下
番椒　野坡
苓野　仝
草花　仝
芭蕉　依之
葛　越人

蕎麦苓　素堂
木綿　卜枝
西瓜　素人
瓢　沾圃
零余子　為有
八朔　沙葉
三月　之道
月　智月

蕎麦の雪や角ある蛇牛
もへ切て茶碗をかくる芒哉
行燈や尾花不形の小ぶし
石臺と弱く根ざしの唐椒
山伏の切出したる草花
草花や秋ちらしの新ぶれ
芭蕉葉に破て渡る風あるも
何とうく花を這ふ葛の表なり

蕎麦苓
きれ搗や蕎麦苓をたとる蕎麦苓
瓜の子小木弱と実る法師
骨折や西瓜の下敷　土竜
昼中の数と落る瓢の那
蟬鳴の弱て落るぬるこ
八朔や女美者のまろ寝
三日月と蕎の矢窓をかくり
おろくとむこえた月の沸光

待宵　きの宵と先賞さたや年のかと　牧童
名月　名月やとの宵生るる子もわん　信德
既望　いさよひやたゝ宵寄るかの色　去来
后月　後の月たゝ宮治の巻をゝん　越人
駒迎　一戸や宮破ゝ駒ゝう鬼　去来
放生會　尾を振るかまゝ猫ゝ放生會　李吟
初潮　きり汐や泅曳ゝ舟の帆ゝ紅　嵐蘭
稲花　買ゝ川塗ゝ稲の花　露川

稲　稲の事や虎落のゝ沈芝深　雷得
早稲　不稲の事や四丁ゝ沈唐の人出入　曲翠
晩稲　狼ゝ沈頃ゝる晩稲の那　支考
落穂　鶏の卵ゝ稲ゝ落穂ゝ　其角
案山子　ものゝ言ひゝ倒ゝ案山子ゝ　凡兆
鳴子　谷越ゝ鳴子の沼や窓のゝ　丈山
引板　夕雲ゝ蕎麦咲方や引板の音　路通
添水　さゝくゝ添水の沼も不敗の　虚谷

鳥驚　あか悟やおとしまつ子ちらす　一酬
落水　秋もてや落るあのり紫水　昌房
落鮎　落鮎のるかふまつ渡しるる　一桃
秋作物　望圃ゑ奥まを赤き入日ゑ　空方
新酒　家ゑし新酒八人の碑やまき　嵐雪
鶏　鶏や僊赤くむ柚のうら　阿水
鶺鴒　牛呵る春ゑ鶺ゑ那　支考
鵜　肖のゑの知恵ゑ根ゑ春ゑ那　五芝

木啄　木啄きの入まゑゑ藪のまの　丈山
鶺鴒　せさまんや走ゑと失る白川原　水因
鳩　寂〳〵ゑ殖吹野ゑかゑゑる　野水
鹿　別〳〵鹿死ゑ笛ゑる太山の那　道牛
菌　茸狩や繋けるゑ赤ゑ　全峯
松茸　松茸や雪ゑと奥ゑ春ゑ那　孤屋
初茸　ゑの茸や埃ゑ津ゑも一盃　沾圃
柿　渋柿ゑ藪の中ゑと山のうち　呂風

栗　さゝ栗の吹たくさゝる籠波か　立路
園栗　栗や太郎ひ逢ふる　窪溜　杜年
椎　椎拾ふ人遥なるやゝきふる　夕潮
木實　移らゝ木實ゝ交る森の囊　李由
重九　落栗の毬あるもそも移ひる　観水
九日　金の菓子ゝ咲ふるふの菊　和及
菊　白菊ゝ菊ゝぬそおゝにおき　昌碧
残菊　さ形ゝしゝときのゝ菊の枕か　素堂

擣衣　君の家ゝ灯しゝゆけば作ふか　立志
露時雨　作雲て湧ふくそ露時雨　北枝
秋雨　ぬゝゝ雨木強ふふる秋の雨　尚白
紅葉　小男小かゝけゝゝや下紅葉　秀和
秋夜　秋の夜や下ゝ去菊の池さえ　好春
長夜　去さ狩と旅菊外ゝ寝ゝ生ふ　去來
夜寒　ゝ寒ゝ孤ゝ近ふく秋寒ふ　畦上
鳥　山ゝ小鳥の去ゝ数の角　其角

秋暮　行秋　秋雲　簗　渡鳥　鉅　末枯

俳のかる縄の簾や　秋のくれ　不炊
行秋　行秋のかる袖も形き袷かな　杜年
苅稲や秋田のうへの秋の雲　洒堂
のこりなる魚の栖や　くぼき簗　丈艸
秋風や　天窓のうへを渡る　去來
鳴鳥を吟て啖ふ鉅かな　一口
うら〳〵枯やるも俳諧ふる山の山　其角

冬之部

初時雨　初時雨　荊口
時雨　天地の咄し〳〵時雨の形　湖春
志巻　志まく見れおもひひろひる紙袋　松芳
口切　口切やさらに他里に　瓢さ　木導
爐開　炉ひらきや墓間を通ふ柄杓の新　其角
炉　炉を出て　身を動白式　野水
火桶　火桶抱て瀬　徐をかくしきて　路通

火鉢　ひとり居やたゝく火鉢も歌書れ侍　秋色
巨燵　侘しさハ歌ゑそ知る巨燵哉　挑志
炭　うゝ称るゝゝ敷き炭の山も哉　戦竹
炭竈　炭竈よ手ゐひの狐の倒も哉　宍兆
埋火　うゝみ火や庵の蔵入る朝朗　班車
榾　炉をめ〻る今津もおゝし榾の蟻　荷兮
十月　十月やいつきん哉哉哉哉哉　幽也
神無月　稲の居る野中ゝ抗よ神ゝ去月　山店

神送　此里の牛ゝ蔵ゝ神送　卜枝
神出主　月もやふまゝゝゝ神の留主　李卜
小春　蜜柔ゝ小春小春落る涼山ゝ和　言水
達磨忌　ゝゝるゝきや蔵ゝゝのくゝ根来椀　竹良
十夜　淡柿をゝゝゝて通る十夜ゝ　路通
御影講　御影講や紙衣のうへの麻袴　買魚
御取越　ゝすゝゝぬ蔵の方ゝ恐法越　芭字
蛭子講　ゝゝかゝゝ家となゝ乃ゝ　夫来

神迎　何と形く星まつりや神むかへ　如琴
顔見世　顔見世や淋しいさむと郡の稽　其角
吹革祭　作山よ吹革祭ゆかし〳〵巖　李由
冬至　つぶの小豆も移ふ冬至の那　凡兆
風　水のうし小二月は吹革ゑら　荷兮
冬木立　萱ヶ家の伐りかぶり冬木立　琴風
冬山　粉の糞ゆき白き猶や冬の山　素牛
冬日　冬の日よ二丁〳〵明るの稽の羽ぶ　友五

冬月　夢ふまで猿の歯ぶ〳〵冬の月　其角
冬夜　何と形く冬夜膳をそなへけり　仝
冬籠　冬籠炭屋炭屋は嵐の那　杉風
冬構　古寺の簀子も青〳〵冬ごもり　凡兆
寒椿　いつ去ぬ〳〵屁おこせハ寒椿　亀洞
枯菊　色〳〵の菊一色で枯ぬきり　柳水
寒菊　寒菊の色を何ふきぶの家　湖風
枯芒　小坊主も旅人なれや枯芒哉　配力

水仙　多仙の葉乃こゝろ也、藪屋敷　惟然
茶花　木蟹の葉の花也　猿雖
石蕗　破れ芭蕉の石蕗　調竹
帰花　帰花それもたのん　其角
茶山花　山茶花小蝶多峰　言水
枇杷　農明の新すさまじや　宗乙
冬牡丹　冬牡丹定のうれきたるもの　丈中
木葉　大くらの木葉虫の殻　杉風

落葉　蓑虫の震ひ乃紫さへ落たる　玄梅
枯柳　何ぞ引さるふるの子し　枯柳　凉莵
蕎麦刈　蕎麦刈や白菊ふ伊勢の古畑　素竜
麥蒔　麥蒔て麥麗よ形見　昌碧
大根引　今やうも志ぬ寒し　大根引　風國
干菜　約そめしその夜干菜の嵐　一峰
葱　引ぬりや昔そのそ小鍋立　雨橋
蕪　雪狗の好ふひ　蕪の車　集遊

霜　雪の朝梅擢乃実の赤色より　杜國
霜夜　一色も効くそのあさ霜夜哉　野水
霜柱　霜さゝら色うめけしや古竈　圃仙
千鳥　磐戸にも入江のゆるる千鳥哉　丈山
水鳥　水鳥の潜るやいつこ深さ哉　楊斐
野鴨　野鴨を慈て野鴨帰る早の林の子　才磨
鴛鴦　鴛鴦帰る渉渡氷る九条の船　雷虫
鶺鴒　鶺鴒や氷のいかり[illegible]　紫車

鵙　雪の日を蕭うそふそそそそ残そそる　依之
鷹　鷹始ふ雪ふる時晴ふる尾上哉　冬市
暖鳥　ぬくめるそのこ夜くこの命う船　丹丘
木兎　木兎や山のもひ切る星の西　牧境
追鳥狩　追鳥の一羽乗り入日の那　一峰
冬蠅　冬蠅存命て暖ふ船ふの蠅　史邦
花臍魚　鰉鍊の腸を伺ふ浦の船　玄角
空鮭　空鮭ふ鮭や死ふる時の口ばあき　雪[illegible]

蛎　夜興　河豚　鱈　生海嵐　鯨　網代　暴

氷花　檀泉　和重　去来　野坡　文中　卯七

寒　寒中　寒声　寒垢離　胝　藥喰　納豆　紙衣

桂之　千川　仙杖　路通　氷花　支考　汀芦

頭巾　陽遂家や庁耳うるて　角頭巾　蝸口
食　汐辛も寝入るまてと　啓食　小春
足袋　古足袋の四十文豆とふ　ふるぬ　嵐雪
湯婆　蚤乳女の湯婆や　ちめん猪の声　嵐蹄
初雪　物雪や人のきらんハ　朝のうち　桃隣
雪　蚤ゝと　はと　却や　雪の門　去来
霙　つ和ゝ傘　ゝ　ゝむ　ゝ　ゝれる　斧鉄
雪吹　引ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　去来

冗　摘桐の葉ゝ叢ゝ　野童
櫟　津多ゝ　ゝ　ゝ　櫟の　ゝ　ゝ　舎帖
橇　ひとり　櫟の　ゝ　ゝ　ゝ　道達
水柱　岸ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　虚吟
氷　枯芦ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　苔襲
凍　凍ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　秋坊
神樂　空ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　利堂
寒念仏　晩乃　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　去来

鉢扣　鉢寺に死人八彩よ汲ぬとのう　杉風
朧八　新月ふも汲寺走八月七日を寺し　落柿
御佛名　新月鼻　勝寺罪あき　御佛名
燥拂　燥とはて寺八月出家　佛の名　不卜
節季候　貧よかゝる和尚　節季候　一洞
師走　山伏の月事　師走　嵐雪
餅搗　餅搗や火とかゝる男部屋　餅搗　嵐雪
年忘　年忘盃　桃花　年忘　盛水
　　酒堂

暦賣　古暦かゝきく人ゝまゝ　孤屋
年市　年の市ゝ拍ゝの山家人　魯尚
豆囃　豆ゝ子ゝ寿ゝ　其角
年暮　鄉の尾を捲て立ゝ　正秀
衣配　文箱の先撫根見る　曾良
岡見　岡見ゝと妹ゝ　嵐雪
待春　待春や机よ揺ふ書　浪化
行歳　行年よ京へと　胡蝶

大年

大やうや親子俵のたし者ひ